③横浜における建築・都市デザイン関連業務

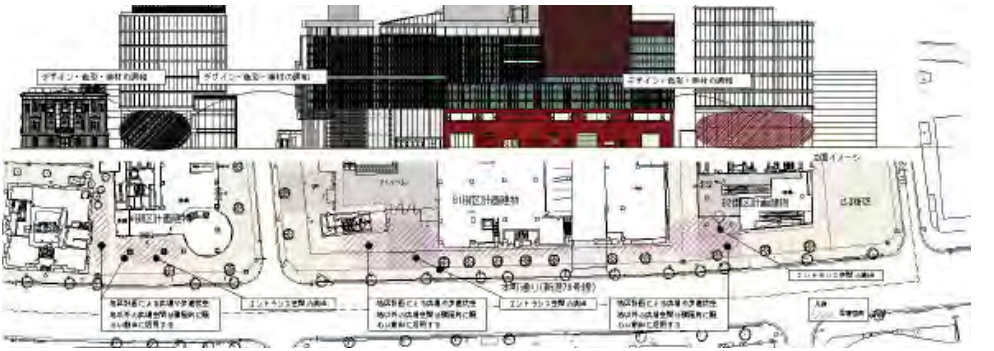
■神奈川県立芸術劇場・ＮＨＫ横浜新放送会館設計および都市デザイン調整　［UR 都市機構神奈川地域支社］2006-10

神奈川県立芸術劇場 (KAAT) とＮＨＫ横浜新放送会館の複合施設の設計、及び都市デザイン業務について公募がおこなわれ、応募件数 18 件の中から「香山・アプル総合・アプルデザイン設計共同体 (以下香山アプル JV)」が設計者に選定された。

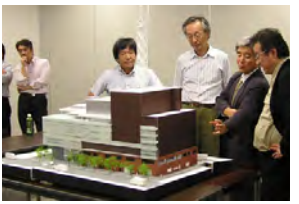
■都市デザイン調整

アプルは主に都市デザイン担当として、B1 街区に隣接する A･B ２街区施設も含む、事業主体関係者 (香山アプル JV、神奈川県、ＮＨＫ、A･B2 街区の民間事業者、都市機構) を一堂に会したデザイン調整部会 (座長：中野恒明) を運営し、街区に跨るデザイン指針を策定し、各部デザイン詳細や管理運営に至るまでの調整を含み、最終的なデザインガイドラインとしてまとめ上げた。デザイン指針の実施については、学識経験者 (北沢猛東京大学教授、北山恒横浜国立大学教授・ともに当時)、および横浜市都市デザイン室との協議も行った。

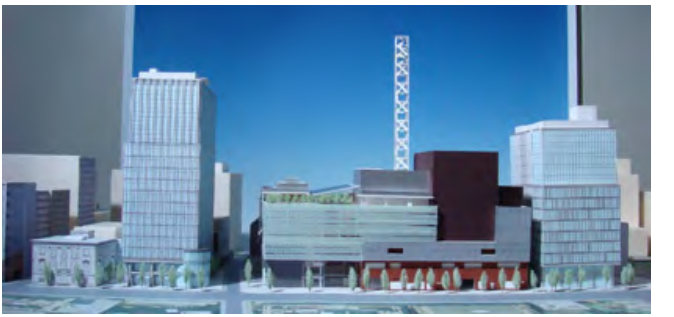
KAAT 神奈川芸術劇場 /NHK 横浜放送局



横浜山下町地区デザイン計画より



デザイン調整会議での一コマ



景観検討模型

照明デザインのデザイン調整シートの例 (LPA 作成)

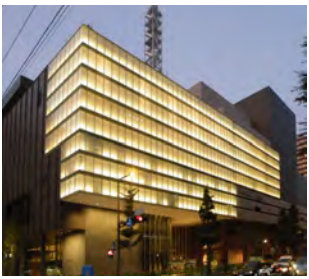
各街区の建築模型を持ち寄り、相互のデザインについて議論する、ベース模型はアプルが担当

経緯　横浜山下町地区Ｂ１街区施設建築物設計業務設計者選定公募型プロポーザル '06.3 ／横浜山下町地区 B1 街区施設建築物設計業務 '06.3 ～ 12 (JV)/ 横浜山下町地区 B1 街区施設建築物変更設計 '08.3 ～ 09.6(JV) ／横浜山下町地区 B1 街区施設建築物工事監理 '08.2 ～ 10.4(JV)

■神奈川県立芸術劇場・NHK 横浜新放送会館設計および都市デザイン調整（つづき）

■建築設計

香山アプル JV の設計チーム (香山寿夫･大野秀敏氏) に加わり神奈川県立芸術劇場･ＮＨＫ横浜新放送会館＋旧山下居留地 48 番館の保存建物の建築設計全般のサポートに加え、横浜居留地遺構である 1883(明治 16) 年築とされる旧 48 番館の保存改修提案、その他工事中に発掘された関東大震災の被災遺構 (煉瓦基壇ほか）にかかる地元関係者との調整、保存展示設計を担当した。



本町通り側の夜景

旧 48 番館通り半屋外カフェ予定地

保存改修された旧 48 番館

旧横浜居留地 48 番館説明パネル

旧 48 番館の内部とガラス屋根

遺構復元展示と説明パネル（夜景）

旧コッキング商会敷地から出土したレンガ塊

諸元　発注：UR 都市機構神奈川地域支社　所在地：横浜市中区山下町　構造：S 造 +RC 造 +SRC 造　階数：地下 1 階地上 10 階　建築面積：4,878.63㎡　延床面積：20,307.63㎡　意匠：香山・アプル総合・アプルデザイン設計共同体　構造：MUSA 研究所・構造計画研究所　設備：森村設計　音響：永田音響設計　照明：LPA
遺構展示意見交換会：山下居留地遺跡の価値を考える会、かながわ考古学財団、学識者ほか　担当：中野、萩原、加藤、池田、佐々木、柴田

■横浜税関本関庁舎設計　［国土交通省関東地方整備局］2001-03

横浜の歴史を刻む税関庁舎、その塔は「クイーン」の愛称で親しまれる港ヨコハマのシンボルであり、その歴史的建物の保存・増築の設計者選定の公開プロポーザルコンペに参加、結果として特定され、設計に関わったものである。コンペは２人の建築家 (香山壽夫・大野秀敏両氏) と都市デザイナー (中野) の３人の協同によって、従来の建物の 1.5 倍の規模の増築という条件の中で、歴史的建物の外観を保存する都市デザイン的アプローチの提案が高く評価された。

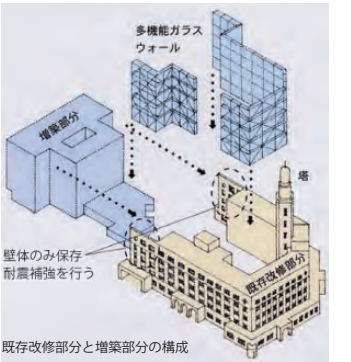
とりわけ都市デザイン的アプローチとしては、横浜発祥の港・象の鼻や周囲からの景観への配慮、そして増築部の高さ、位置、残すべき外観等について、早い段階で条件付けなどを行ったことで、設計方針がより明確化できたことが、保存修復と増築の調整がスムーズに図れたと思われる。

計画案はロの字の旧庁舎の西側を解体し、そこに新築棟を建設するとともに残りのコの字の旧建物の保存改修を実現した。実施設計段階は両建築家に委ねた形となったが、監理段階まで JV として関わった。

改修後の横浜税関本関庁舎

赤レンガ倉庫・象の鼻パークと税関庁舎の関係

基準平面のイメージ



既存改修部分と増築部分の構成

税関展示室の内部空間

新旧の対比

歴史の継承

経緯　横浜税関本関庁舎設計・設計者選定プロポーザル '00.6 ／横浜税関本関設計 '00.7 ～ 03.10 ／横浜税関本関工事監理 ' 01.7 ～ 03.10
諸元　発注：国土交通省関東地方整備局　所在地：横浜市中区海岸通　構造：[増築部]-S 造、一部 SRC 造　[改修部]-SRC 造　階数：地上 7 階、塔屋 5 階　敷地面積：7,202.7㎡　建築面積：4,024.16㎡　延床面積：15,955.32㎡　用途：税関事務庁舎　原設計：大蔵省営繕管財局 (大熊喜邦)、原施工：戸田組　改修設計：香山壽夫建築研究所 + 大野秀敏 + アプル総合計画事務所　構造：MUSA 研究所　設備：森村設計　造園：エキープ・エスパス　設計期間：'00.7~'01.2　施工期間：'01.3~'03.7
担当：大野、中野、郷田、萩尾、粕谷、加藤、金子

■横浜・赤レンガ倉庫活用検討（２棟間広場整備計画等）　［横浜市］　1999

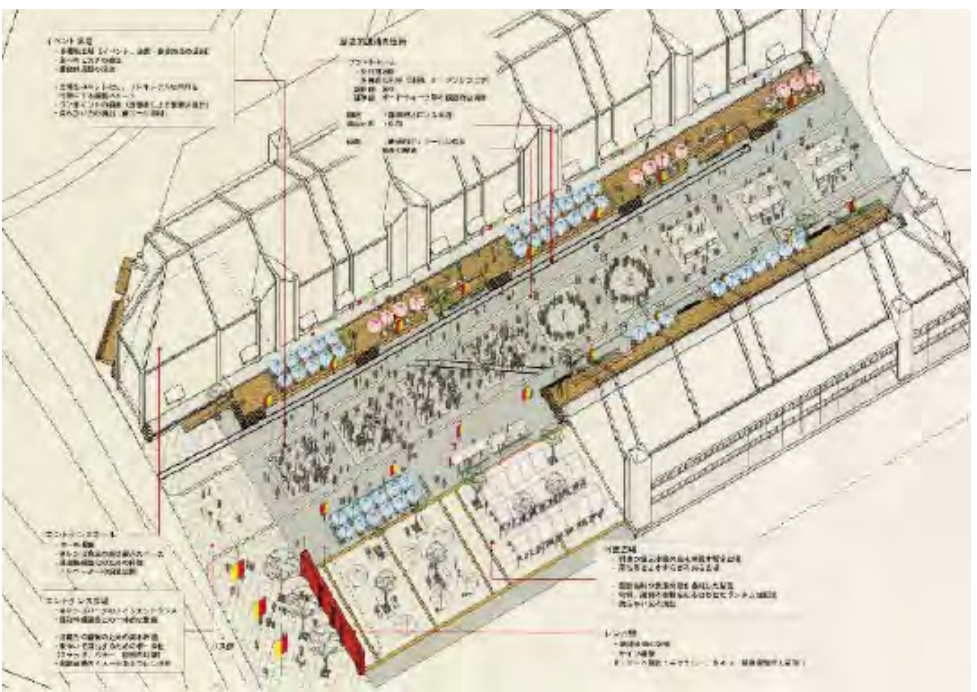
横浜市は歴史的建物「赤レンガ倉庫」の保存活用に際しての、建物の商業（1 号館）および文化（2 号館）的用途への改修を決定し、国用地・港湾緑地の前提のもとに、２棟間広場の活用のあり方の検討を「門司港レトロ地区」における成功実績を有することから、アプルが選定された。諸条件の整理、段差処理方法の検討を経て、積極的なイベント利用を図るために、極力シンプルな構成とすることで、歴史的遺構に配慮することも含め、関係機関、市都市デザイン室、文化庁専門家との協議を経て、基本計画案を作成した。

実施設計は建築家・新居千秋氏に引き継がれ 1 号・2 号倉庫の保存活用改修と一体的に進められ、2002 年に完成を見た。今も積極的なイベント等が開催されている。

赤レンガ倉庫広場の位置

完成した赤レンガ２棟間広場から大さん橋、ベイブリッジ方面を望む

赤レンガ倉庫広場のイベント利用イメージスケッチ

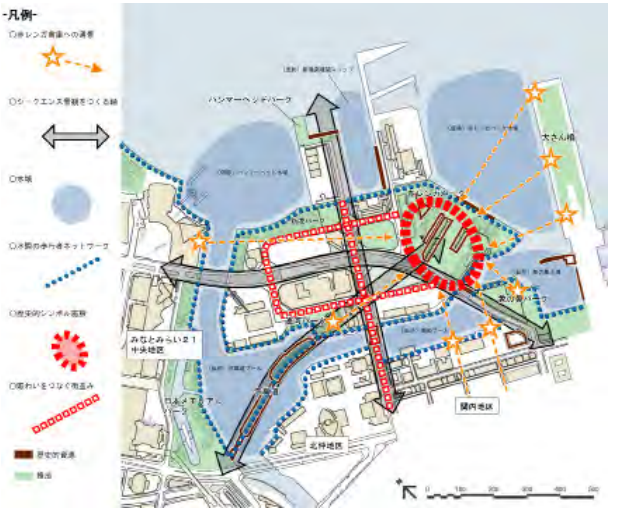

赤レンガ倉庫広場のイベント利用の提案（アクソノメトリック図）

経緯　赤レンガ倉庫活用検討調査（２棟間広場整備計画等）‘99.2 ～ 3　　担当：中野、清水、星野、江口、天野

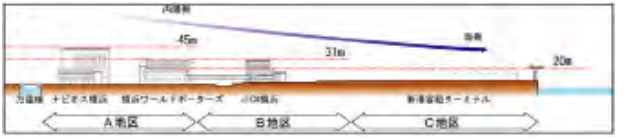
■みなとみらい 21 新港地区景観計画　　［横浜市］　2007-09

2004 年の景観法、2006 年の横浜市景観ﾋﾞｼﾞｮﾝと横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例制定を受け、これまでの新港地区の街並みづくりやその成果を引き継ぎつつ、新たな都市景観形成ガイドラインとして改定するための検討を行ったものである。

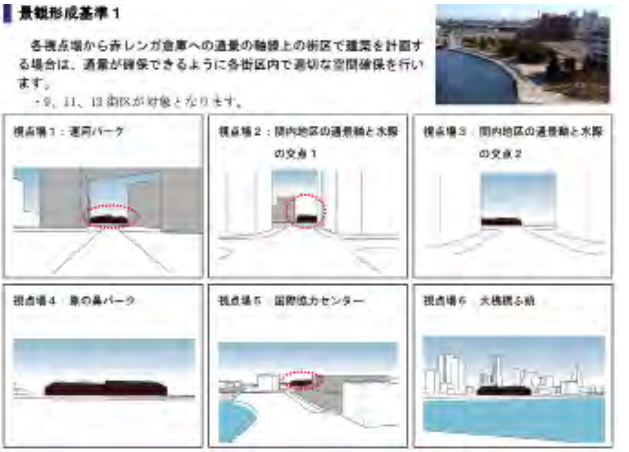
既存の空間形成の基本方針に加えて、景観形成の骨格として、赤レンガ倉庫への通景や、歴史やみなとらしさを演出するシークエンス景観、周辺地区からの見下ろし景観などの新たな要素を加え、景観形成基準及び行為指針をまとめている。その検討内容は平成 22 年 1 月に策定された「みなとみらい 21 新港地区街並み景観ガイドライン」として冊子にまとめられ、市 HP にも公開されている。



街並み形成概念図



万国橋軸断面構成イメージ図



みなとみらい 21 新港地区街並み景観ガイドライン
横浜市ＨＰ掲載

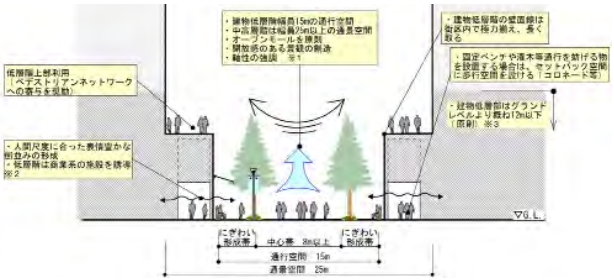
経緯　MM21 新港地区景観計画等検討 ‘07.11 ～ 08.3 横浜市／ MM21 新港地区景観計画等継続検討 ‘08.6 ～ 09.3 横浜市　　担当：中野、池田、笠間、佐々木

■ＭＭ２１地区キング軸整備イメージ・デザインガイドライン　［みなとみらい 21 街づくり協議会］　2004-11

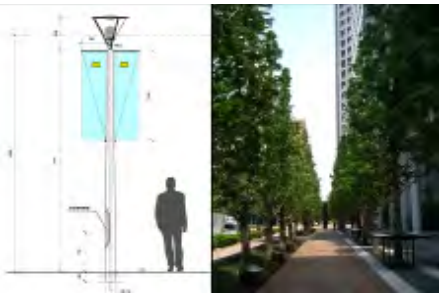
ＭＭ２１地区の３つの都市軸 (グランモール軸、キング軸、クィーン軸) の一つキング軸のデザインガイドライン作成のための調査である。グランモール軸は公園、クィーン軸は民間開発間調整によるインナーモールに対し、キング軸は MM21 地区基本協定および地区計画に基づいて各街区地権者が公開空地を提供し実現される都市軸であった。50 街区民間複数事業者（集合住宅）と 51 街区高島中央公園の整備が急がれる一方で、新高島駅周辺開発計画が流動的な中で、このキング軸を実現するためのガイドラインという使命を持つ難しいものではあったが、将来の都市軸の形成のための基本条件を整理し、各関係機関との協議を経て取りまとめている。本ガイドラインに基づき、前掲の２街区の軸的空間は数年後には実現した。

キング軸位置図

キング軸ガイドラインの項目　＜各要素のデザイン＞
(1) 位置づけ　(6) 舗装
(2) ガイドラインの目的　(7) 植栽
(3) 適用範囲　(8) 照明
(4) 基本的な考え方　(9) 街具
(5) キング軸の空間構成　(10) 色彩
(11) その他・にぎわいの形成



調整段階のキング軸イメージ（2005 年段階、みなとみらい 21 街づくり協議会による確認）



キング軸イメージ（軸線の強調）　照明・樹木の統一

周辺街区との調整

キング軸平面図

経緯　キング軸イメージ検討調査 04.12 ～ 05.3 ㈱横浜みなとみらい二十一／平成 17 年度みなとみらい 21 地区キング軸整備調整　‘05.5 ～ 06.3 みなとみらい 21 街づくり協議会／平成 17 年度 MM21 地区街づくり検討資料作成 ‘06. 3 ／みなとみらい 21 地区ｷﾝｸﾞ軸周辺街区開発条件等検討業務 ‘10.8 ～ 11.1 横浜市

担当：中野、田邊、松尾、笠間、田澤

■ MM21 地区基本協定関連規準等作成　　［(社) 横浜みなとみらい 21］　2006-2023

MM21 地区は地権者間による「みなとみらい 21 街づくり基本協定」締結 (1998 年) 以来、良好な街並み形成に向けて建築物の景観誘導と合わせ屋外広告物等のコントロールを行っている。この検討はこれまでの審査過程で積み重ねられてきた実績記録をもとに、屋外広告物規準 (案) を作成したものである。あわせて地元専門部会等の関係者間で協議調整を重ね、2007 年度末に規準（冊子）として取りまとめるに至った。

その後、みなとみらい 21 街づくり協議会および㈱みなとみらい二十一（当時）によって試行運用され、横浜市の景観法・景観条例に基づく景観形成ガイドラインのと調整の後、2008 年 7 月に街づくり基本協定の関係規準として位置付けられている。

2012 年より、デジタルサイネージ、暫定広告物等の運用規準の追加、試験運用、ガイドライン見直し等にかかる専門部会への参加も含むアドバイザー役を継続している。

MM21 地区屋外広告物規準より抜粋

経緯　MM21 地区広告ルール検討資料作成 '06.6 ～ 12 ／ MM21 地区街づくり検討 '12. 1 ～ 3 ／平成 24 年度 MM21 地区街づくり検討調査 '12. 9 ～ 13. 3 ／平成 25 年度 MM21 地区街づくり基本協定見直し検討及び運営補助 '13. 7 ～ 14. 3　　担当：中野、田邊、大木、茅根、山本、松浦

■高島中央公園デザイン検討　　［横浜市・都市再生機構］　2005-08

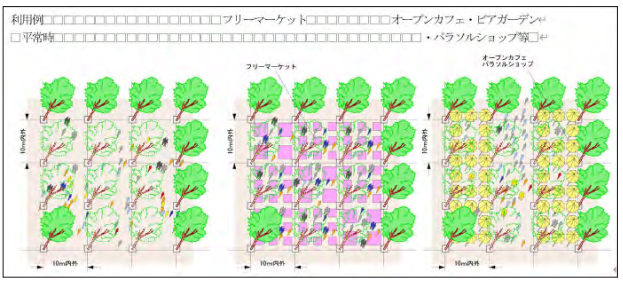
ＭＭ 21 キング軸上に位置する高島中央公園計画の再検討、2002 年の公募市民参加による基本構想を経て、翌 03 年に基本設計完了も、歩行者動線検討やガイドラインとの整合性等から全面見直しとなり、アプルが担当することとなった。

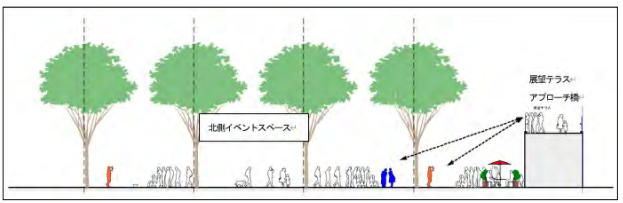
関係者協議を経て、キング軸北側を樹木に覆われたイベント可能な広場、南側は中央に芝生広場の緑地主体の空間とし、その中央に通景を活かした並木道、という構成としてデザイン案を取りまとめた。後に実施設計段階（別途・造園設計）で管理上の観点から、北側広場部の樹木が縮小・削減され、現在に至る。

キング軸の通路空間も格好の遊び場に

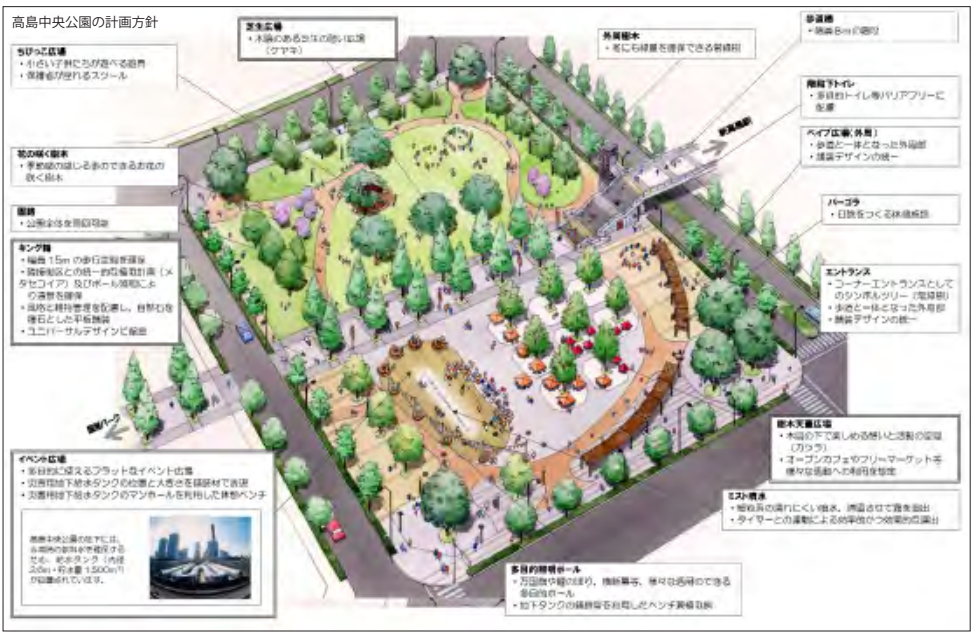
北側の広場ゾーンのミスト噴水

南側の芝生広場と遊具スペース、緑陰





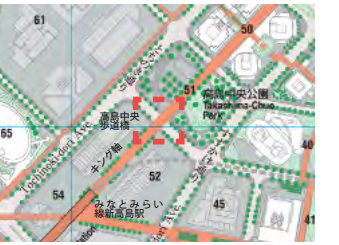
樹木間広場の活用イメージ



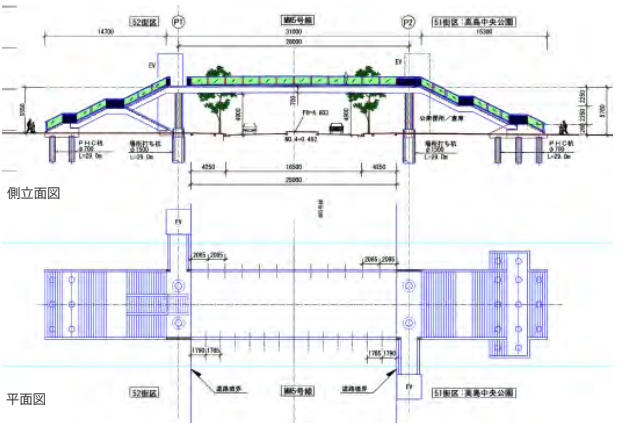
経緯　高島中央公園デザイン検討 ‘05.2 ～ 3　横浜市／ MM21 中央地区高島中央公園関連基本設計 ‘05.6 ～ 10　都市再生機構神奈川地域支社／ MM21 中央地区高島中央公園トイレ及び倉庫等建築実施設計協力 ‘06.3 ～ 6　㈱ライフ計画事務所（都市再生機構神奈川地域支社）
諸元　面積・約 1.4ha　実施設計・㈱ライフ計画事務所　竣工 2007 年 6 月　　担当：中野、加藤、田邊、松尾、笠間、池田、萩原

■ MM21 地区の歩道橋・高島中央歩道橋　　［㈱オリエンタルコンサルタンツ／ UR 都市再生機構］2005

みなとみらい 21 地区の歩行者軸「キング軸」上の新高島駅側センター街区デッキレベルから高島中央公園を経て海側に続く歩道橋の景観設計を担当した。アプルは「キング軸」および周辺街区のデザインコードづくりと同公園の基本設計見直しも含む全体のデザイン調整役を担ってきた関係で、㈱オリエンタルコンサルタンツからの協力依頼を受け、構造形式の代替案検討を含む初期段階から関わり、利用者の上下移動を最小限に抑えつつ桁下の景観配慮等から逆台形箱桁構造とし、階段下空間の有効活用の提案 (公衆便所との一体設計)、エレベーター建屋、高欄・舗装・照明等の橋面工のデザイン等を担当した。あわせて公園設計者（ライフ計画事務所）に協働する形で階段下公衆便所の一体設計も行っている。



高島中央歩道橋の位置



キング軸上の高島中央歩道橋の橋面から海側から望む

高島中央公園側の階段部下に納められた公衆便所

高島中央歩道橋のシンプルな箱桁を採用で支間長 28mで桁高 0.7m を実現した

高島中央歩道橋の橋面から新高島駅側のキング軸（予定）を望む

高島中央歩道橋の側景観とガラス張りのエレベーターシャフト

経緯　MM21 中央デッキ (高島中央歩道橋) 景観検討 '05.8 ～ 06.3 ㈱オリエンタルコンサルタンツ (都市再生機構神奈川地域支社)
諸元　所在地：横浜市西区みなとみらい　高島中央歩道橋　幅員 8.5 m　橋長 31.0 m　階段部 14.7 m＋ 15.3 m　計 61.0 m　鋼床版逆台形箱桁橋　竣工：'09.9
担当：中野、田邊、松尾

■ MM21 地区の歩道橋・みなとみらい歩道橋［竹中工務店／㈱エイト日本技術開発／㈱ YMM（横浜市）］ 2006-09

みなとみらい 21・JR 横浜駅から新高島地区に至る歩行者動線軸の日産本社前に 2009 年に竣工した V 字平面の 2 つの歩道橋、後に 2019 年に京急本社側に追加され、三本矢形の歩道橋が完成したもの。2006 年当時の L 型平面形状の再検討が市より依頼され、㈱ YMM とともに検討を経て、三本矢形案が決定した。翌 07 年基本設計を担当したコンサルタントのもとで景観設計を担当した。実施段階でデザインビルド方式に変更され、参加の竹中工務店より協力依頼があり、橋梁型式としてストラット付鋼床版箱桁型式を提案し、同設計部と協働した。同社案は特定され、2 橋の実現までデザイン監修の立場で関与した。後に市発注でガラス屋根が追加されている（設計：セントラルコンサルタント㈱、2012 年竣工、関与せず）。そして前掲のように 2019 年 9 月に当初提案の全体形状が成立した。

みなとみらい歩道橋 (8 号交差点デッキ) の位置

みなとみらい歩道橋 2009 年竣工パンフレット (UR 都市再生機構) より転載

みなとみらい歩道橋の橋面とガラス高欄

地上部から見たみなとみらい歩道橋 66-54 デッキ（左）と 66-65 デッキ（右）

みなとみらい歩道橋の日産本社ビル側の階段・エスカレーター

地上部から望む 66-65 デッキの箱桁とストラット

経緯　新高島駅周辺から横浜駅東口への歩行者動線検討 '06.7 ～ 9 ㈱横浜みなとみらい二十一（※ 2・㈱ YMM) ／ 8 号デッキ景観検討 (基本設計)'07.1 ～ 3 ㈱エイト日本技術開発（UR 都市再生機構）／ MM21 中央地区・8 号交差点デッキ整備の景観設計監修 '07.9 ～ '09.12 ㈱竹中工務店（UR 都市再生機構／横浜市）
諸元　所在地：横浜市西区高島、みなとみらい　事業主体：UR 都市再生機構・横浜市　66-54 デッキ・橋長 60 m、幅員 8.0 m、66-65 デッキ・橋長 50 m、幅員 6.0 m　構造形式：ストラット付鋼床版ラーメン箱桁橋　工事期間：'08.2 ～ '09.12　設計：竹中工務店 (デザインビルド)、施工：竹中工務店・竹中土木 JV、66-56 デッキ・橋長 40.2 m、幅員 4.0 m 工事期間 '18.10 ～ '19.9 設計：大成建設、施工 : 大成建設・京急建設 JV　担当：中野、萩原、加藤、田邊、笠間、田澤

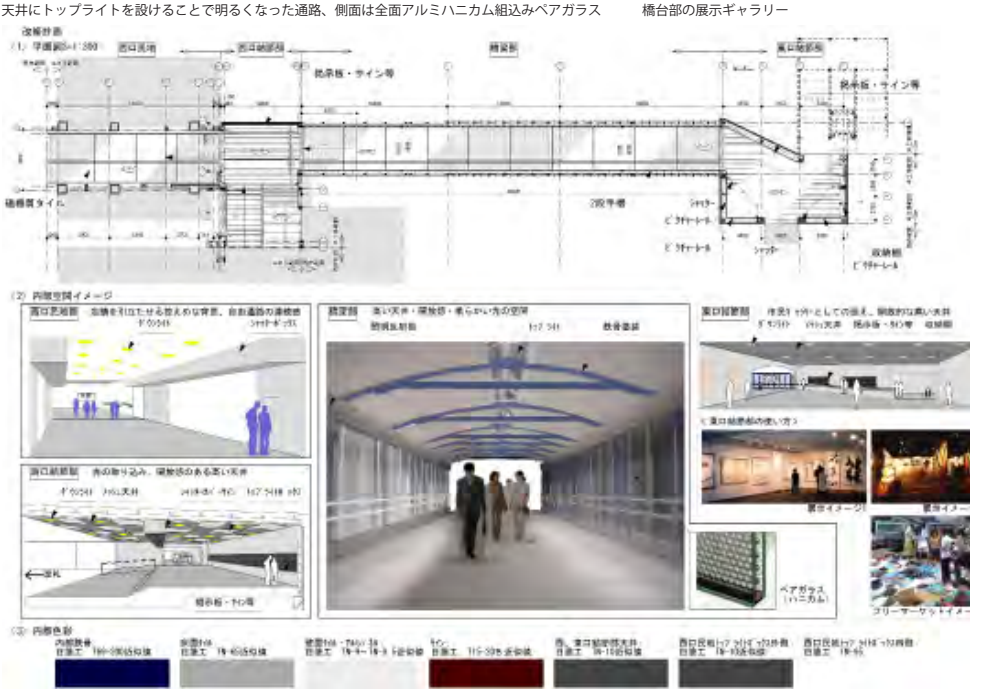
■鶴見駅人道橋改修　［横浜市／鶴見区］2001-03

JR 鶴見駅周辺歩行者空間整備にかかるプロポにて特定 (2001 年)、全体構想策定後の翌 2002 年に同駅隣接の東西自由通路への EV 設置に連動し、橋本体の鋼トラス構造補強と改修設計を担当した。内装イメージの一新を図るため、天井部と側面から自然光を取り込むべく、トップライト (新設) と外装をアルミハニカム組込みペアガラスとしている。両端橋台部の壁・天井面の一新と合わせ、一部にギャラリースペース、休憩コーナーの設置、サイン等のデザイン全般を担当した (2008 年竣工)。

天井にトップライトを設けることで明るくなった通路、側面は全面アルミハニカム組込みペアガラス

改修後の鶴見駅人道橋の外観

橋台部の展示ギャラリー

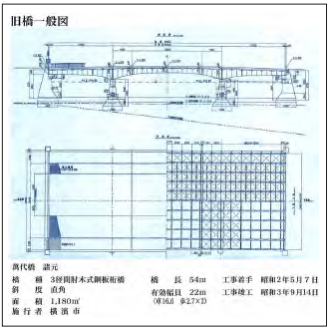


経緯　鶴見駅周辺歩行者空間整備等構想調査 '01.2 ～ 01.3 横浜市鶴見区／鶴見副都心地区 (鶴見駅人道橋) 改修基本設計 '02.12 ～ 03.3 横浜市
諸元　所在地：神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央　　担当：中野、岩村、田邊、池田、協力：パシフィックコンサルタンツ (橋梁構造設計)

■横浜万代橋・震災復興橋梁橋面工イメージ復元　［横浜市］　1997-2002

横浜市中央市場前の震災復興橋梁・旧万代橋の拡幅・架替え (橋梁本体構造は新形式) に伴う「歴史的意匠の継承」を図るべく、残されたオリジナル親柱基壇や周囲に残る高欄の痕跡を実測調査するとともに、各種震災復興にかかる文献や当時の図面や写真などから各種製作図・設計図書を作成し、意匠のイメージ復元を図ったもの、具体的には、石の基壇の親柱と傘部への照明組み込みは当時の白熱灯から寿命の長いコンパクト蛍光灯を使用、高欄は歴史的意匠を踏襲しつつ現代の基準に適合する形状とし、舗装の御影石は極力往時の形状に復元した他、橋詰広場の新たに歩車道境界部に歴史的意匠に配慮したオリジナルの車止めを設置している。
色彩は解体前の橋梁本体の塗料表面こすり出しによって、オリジナル色はグリーングレー色と判明し、橋梁本体や高欄の色の復元をおこなった。

震災復興橋梁・旧「萬代橋」の解体前写真



旧橋（震災復興橋梁）の設計図・諸元

復原された万代橋の橋面

新「万代橋」に継承された耳桁・高欄

復原された万代橋の橋面

復原された万代橋の橋面

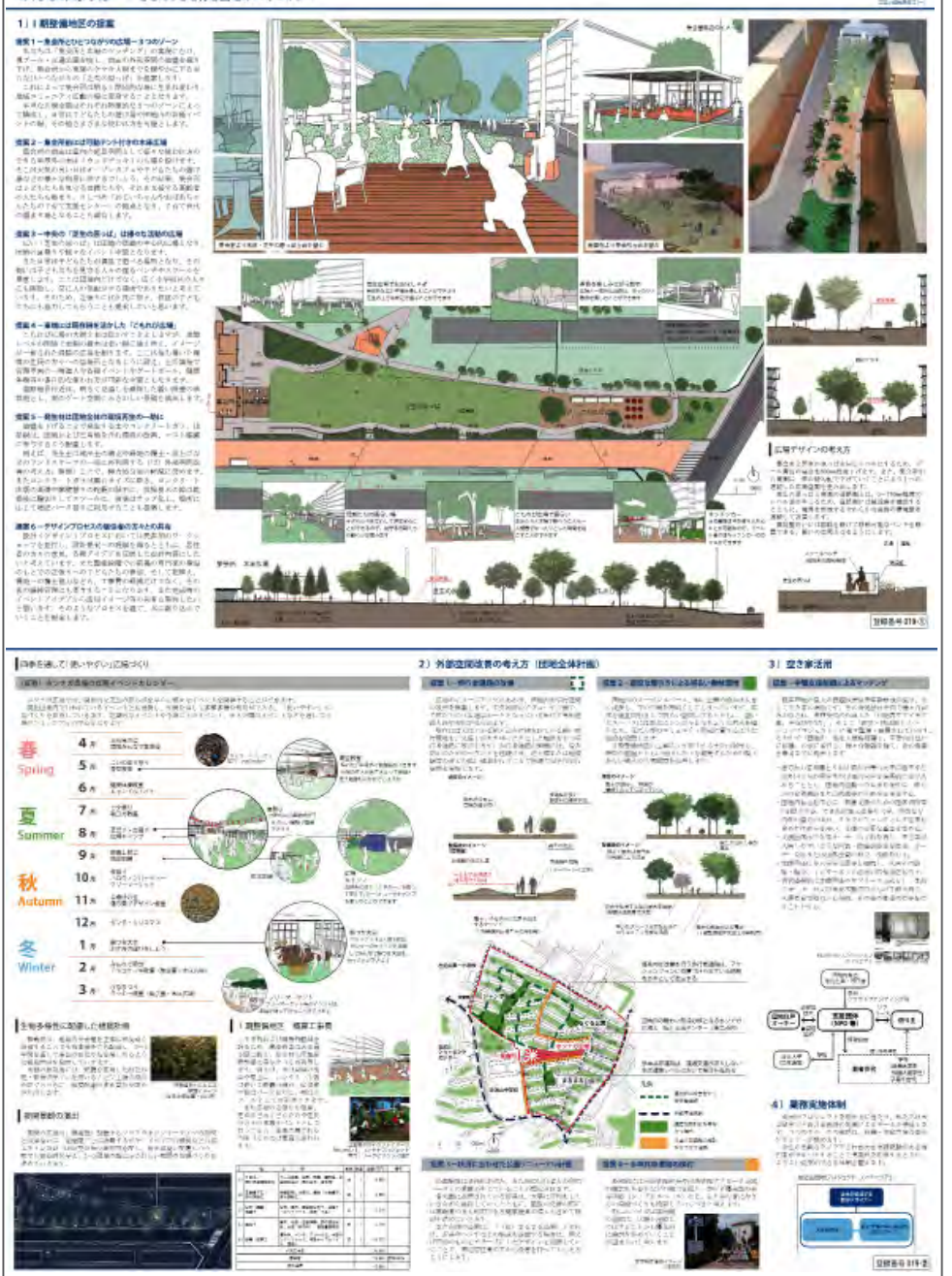
新「万代橋」竣工時のパンフレット

復原された万代橋の橋面の石畳と新しい車止め

復原された万代橋の親柱照明

諸元　所在地 : 横浜市神奈川区栄町、山内町　事業主体：横浜市　構造形式：鋼 1 径間単純非合成箱桁橋　橋長：41.0 m　支間長：40.1 m　幅員：25.8m　歩道舗装：白ミカゲ＋一部旧舗石再利用　照明：コンパクト蛍光ランプ (親柱照明灯)　高欄：鋼製高欄　車止め設置工：鋳鉄製車止め　構造設計：東京エンジニアリング　施工：(下部工) 東洋・山岸・同鉄 JV、(上部工) 日本鋼管 (株)　工期：'99.9 ～ 02.12 ／事業費：約 12 億円　担当　中野、星野

コラム　横浜・左近山団地中央地区 団地再生コンペティション（優秀賞）2015



名称：左近山団地中央地区 団地再生コンペティション２０１５～ 花と緑の左近山：左近山団地中央地区管理組合が横浜市住宅供給公社との共催による「団地再生の実現」を掲げ、一般から提案を募集する団地再生コンペ策定公募型プロポーザルを実施した。アプルは芝浦工業大学中野研究室と共同で提案書を提出、同年12月の第一次審査を通過し、翌 16 年 1 月の第二次審査に残り、「優秀賞」を受賞

経緯　公募：'15.10　第一次審査 (24 チーム)、'15.12　第二次審査 (公開・9 チーム)、'16.1 ／最優秀はスタジオ・ゲンクマガイ、優秀賞は日本総合住生活株式会社、芝浦工業大学 中野研究室＋アプル総合計画事務所、横浜国立大学 建築計画研究室＋西田司（オンデザイン）の 3 チーム、

※左近山団地中央地区管理組合、所在地：横浜市旭区左近山、竣工年：1968 年（昭和 43 年）、建物概要：RC 造 5 階建て・62 棟・1,300 戸、事業主体：日本住宅公団（当時・現 UR 都市機構）管理形態：自主管理　　担当：芝浦工業大学中野研究室（中野、高﨑、藤原、永井、石村、余田、高力ほか）アプル・大木、茅根